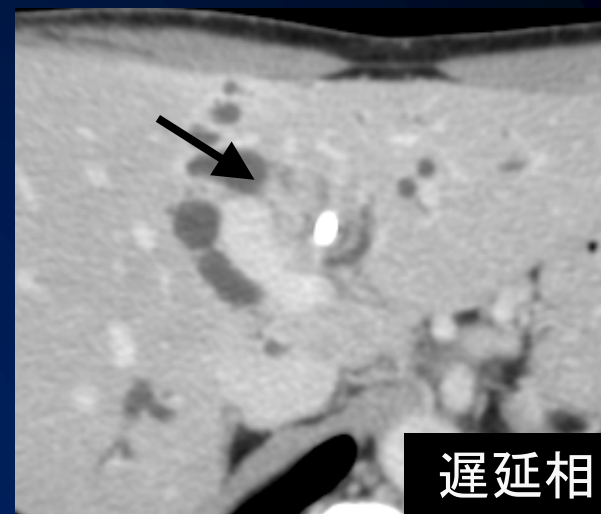
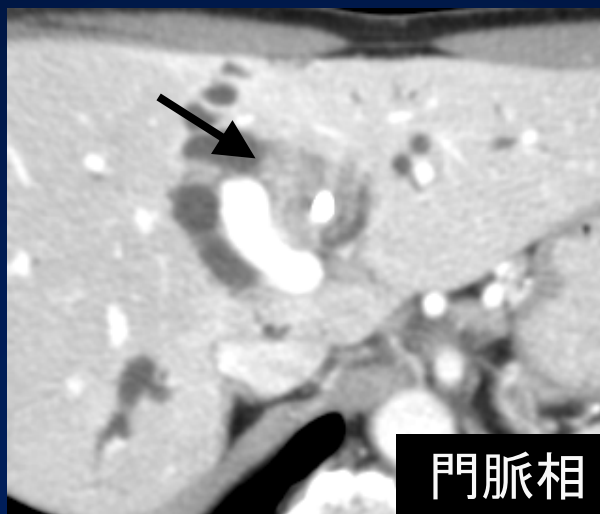
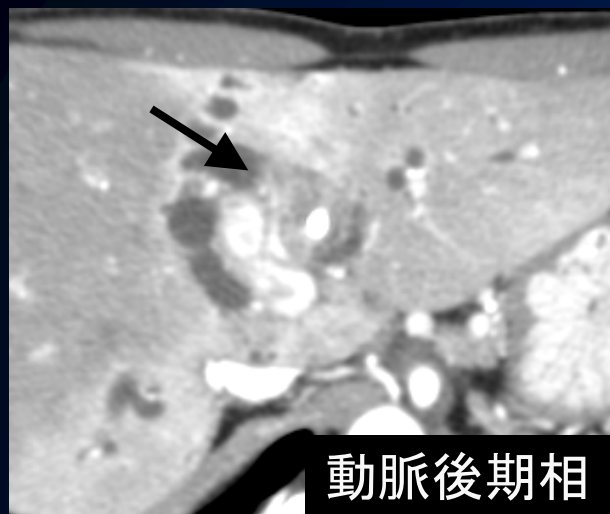


IPNBのマルチスライスCT所見



IPMNと聞くと、ああ、膵臓のアレね、とお思いになる方も多いかもしれませんが、実は、胆道系にも類似の腫瘍が存在します。このことは、病理学の世界では15年以上前から知られていましたが、最近ではこの腫瘍は通常の胆道癌と比べ予後が良いことが明らかとなり、2010年のWHO疾患分類からIPNB(intraductal papillary neoplasm of the bile duct)として記載されるようになりました。この腫瘍は、多相造影CTでは、通常の胆道癌とは異なる造影パターンを示し(矢印)、脈管浸潤についても過大評価になる傾向がありました。またマルチスライスCTによる多断面での観察は、胆管の長軸方向への腫瘍進展の把握に有用でした。